

令和6年3月5日

国土交通省関東地方整備局

大宮国道事務所

橋梁耐震補強・補修における ECI 方式による発注手続きについて

～大宮国道事務所ですべて ECI 方式による技術協力業務の発注手続きを開始します～

大宮国道事務所発注の橋梁耐震補強・補修において、技術提案・交渉方式（ECI 方式）による技術協力業務の発注手続きを開始します。

大宮国道事務所では、国道4号毛長堀橋（けながぼりばし）および毛長堀側道橋（けながぼりそくどうきょう）（埼玉県草加市（さいたまけんそうかし））の橋梁耐震補強及び補修において技術提案・交渉方式（技術協力・施工タイプ「ECI 方式」）による業務発注及び工事発注を試行しています。

現在、設計業務の契約に向けて手続きを進めているところです。今般、準備が整ったため、工事の契約に向けて技術協力業務の発注手続きを開始します。

技術提案・交渉方式は、公共工事の品質確保の促進に関する法律（品確法）第18条技術提案の審査及び価格等の交渉による方式によるもので、「当該公共工事の性格等により当該工事の仕様の確定が困難である場合」において適用します。

ECI 方式を採用することにより、設計段階から施工者独自のノウハウが取り入れられ、より確実に効率的な「設計」「施工」が期待されます。

※詳細は次頁のとおりです。

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、埼玉県政記者クラブ、さいたま市政記者クラブ

<問い合わせ先>

国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所

電話：048-669-1200（代表） メール：ktr-oomiya-koho01@mlit.go.jp

副所長（技） 木住野 誠（きずみの まこと）（内線：205）

管理第二課長 富吉 正幸（とみよし まさゆき）（内線：441）

《技術提案・交渉方式による技術協力業務・工事の概要》

－ 位置図－



－ 橋の諸元－

＜毛長堀橋(けながぼりばし)＞

単純非合成鈹桁橋2連

橋 長:27.1m 幅 員:8.2m

所在地:埼玉県草加市谷塚町

竣工年:1967年

＜毛長堀側道橋(けながぼりそくどうきょう)＞

単純非合成鈹桁橋2連

橋 長:27.1m 幅 員:4.7m

所在地:埼玉県草加市谷塚町

竣工年:1967年

－ 現場写真－



技術協力業務及び工事概要

1) R6国道4号毛長堀橋耐震補強他工事 にかかる技術協力業務

①業務内容

- ・技術情報等作成
- ・設計内容確認
- ・施工計画作成
- ・全体工事費の算出
- ・関係機関との協議資料作成支援
- ・設計調整協議 等

※技術協力対象

- ・橋脚耐震補強の仮設工詳細設計
(毛長堀橋、毛長堀側道橋)
- ・橋梁補修詳細設計(毛長堀側道橋)

②工期

契約締結の翌日から令和6年9月30日

2) R6国道4号毛長堀橋耐震補強他工事

①工事内容

＜毛長堀橋＞

- ・橋脚耐震補強:1基
- ・落橋防止構造設置:1箇所
- ・水平力分散構造設置:1箇所
- ・仮設工:1式

＜毛長堀側道橋＞

- ・橋脚耐震補強:1基
- ・落橋防止構造設置:3箇所
- ・水平力分散構造設置:3箇所
- ・橋梁補修工:1式
- ・仮設工:1式

②工事契約

技術協力業務において設計業務への
技術提案と価格交渉等を行い工事契約
(随意契約)

《スケジュール》

- ・公示日: 令和6年3月5日(火)
- ・優先交渉権者選定通知予定日: 令和6年5月10日(金)

《技術提案・交渉方式（ECI方式）の概要》

- 公共工事の品質確保の促進に関する法律第18条において、工事の仕様の確定が困難である場合に適用できる「技術提案の審査及び価格等の交渉による方式」を規定。
 - 国土交通省直轄工事において本方式を適用する際、参考となる手続等を定めたガイドラインを平成27年6月に策定（その後適用事例を踏まえ、令和2年1月に改正）。
- ガイドライン本文、説明資料は国交省HPに掲載(<http://www.mlit.go.jp/tec/koushouhoushikigaido.html>)

＜主な内容＞

1. 適用工事の考え方

① 発注者が最適な仕様を設定できない工事

例：国家的な重要プロジェクト開催までに確実な完成が求められる大規模なものである一方、交通に多大な影響を及ぼすため、工事期間中の通行止めが許されないことから、高度な工法等の活用が必要な高架橋架け替え工事

② 仕様の前提となる条件の確定が困難な工事

例：構造的に特殊な橋梁における大規模で複雑な損傷の修繕工事

毛長堀橋・毛長堀側道橋で適用する理由

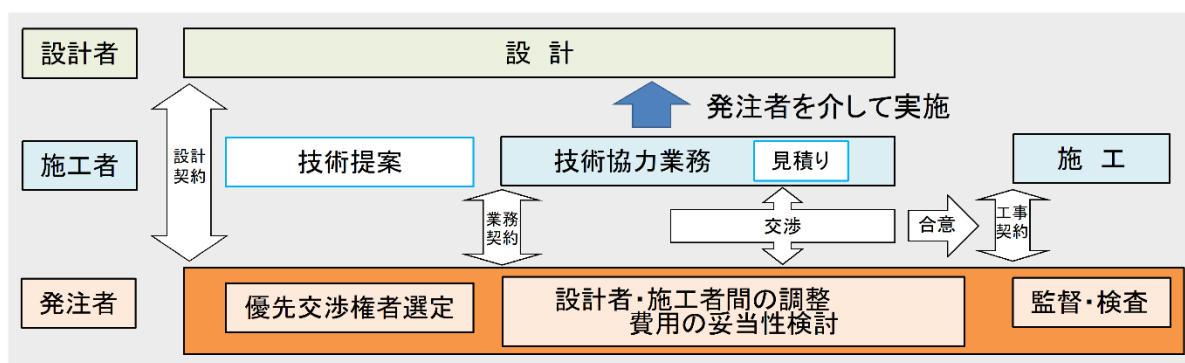
- 橋梁耐震補強と補修を同一工事で実施するにあたり、橋梁補修工事においては交通量の多い国道4号の交通への影響を最小限に抑える必要があり、橋脚補強工事においては非出水期での施工の制約があります。一方で河川内に高水敷が無く、作業ヤードや工事用道路の確保が困難なことに加え、施工ヤードにおいても桁下空間が低く、仮設工や主要工種の施工条件が厳しい現場です。
- 毛長堀橋・毛長堀側道橋はパイルベント橋脚を過年度工事で補強しており、特殊な形の基礎形状になっていることから、従来工法の矢板等による水中橋脚の仮締切が複雑な形状になります。
- 発注にあたって、制約条件を踏まえた設計を行うには、施工者独自の高度な技術力を活用し、様々な制約条件を満足し、安全かつ確実に短期間で施工可能な仮設工法や補強工法の選定が必要なことから、技術提案・交渉方式（技術協力・施工タイプ「ECI方式」）を採用します。

2. 契約タイプを技術協力・施工タイプで実施

技術協力・施工タイプ

⇒ 優先交渉権者と技術協力業務を締結します。別契約の設計に提案内容を反映させながら、工法・工事価格等の交渉を行い、施工の契約を締結します。

技術協力・施工タイプにおける手続の流れ



《全体スケジュールのイメージ》

